（十四日夕刊）

磐城新聞

休刊　大祭第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵税十錢
廣告料　一行半錢指定廿錢増
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

高月集（第十二集）

「接木」

後住の爲めと老僧の接木かな　閑月
接木して嬉しき朝や春がすみ　曉美
春日遲々として接木翁の鋏かな　揚臺
暖き日ざし背にして接木かな　閑月
桂冠の身を餘念なく接木かな　一夢
山がつの親子せはしき接木かな　閑月
老僧の故事偲ばるゝ接木かな　曉美
接木して兎角見入るや日ぐれ時　揚臺
旅仕度とらで接木の藥をとる　瀧堂
大野を笑うて翁の接木かな　一夢
孫思ふ心や老の接木かな　瀧堂

「櫻」

櫻のぞく庫裡の夕や僧一人　揚臺
ちる櫻僧に戀ある夕べかな　天仙
農閑の日をさきほこる櫻かな　一夢
櫻ちる法衣の袖や京の春　曉美
深山路の櫻に憩ふ初對面　揚臺
身も魂もうつろとなりぬ花の蔭　瀧堂
さら／＼と音もしさうぞちる櫻　揚臺
湯の谷の櫻を仰ぐ狂女かな　曉美
櫻ちるや京木も眠る池畔亭　一夢
ちる櫻朱欄に淡き夕日影　天仙

霊と肉 □□□□（十四）

平時代の思ひ出　長岡加登晴

失はれたる魂

暫の憩に私は尚もサルベーション・アーミー、スピリットの復興を見す大海原オーシャンの眞只中に躍り込んだ。水練術に乏しい私には實に無鐵砲な先見づくことだつた。

まづパンを得るための職にありつかねばならない。毎日のやうに足を捧にして職を捜し廻つた併し不景氣のどん底の大都會が私の身を保證して呉れる仕事はなかつた。

或時は聯隊區司令部の臨時書記となつた。救世軍大尉が陸軍の臨時雇となつた（わけ）又大防で某商店の小僧となつて毎日塵埃にまみれ汗みどろになり自轉車を乗り廻した。あるひは生命保險會社の務員となつた時もある。一年と言ふものは只齷齪して過した。

事は初にもどるがこうして世間の荒浪にもまれつゝあつた時に救世軍は私によく同情を以つてゐたつて呉れた有難くも思ひ又不愉快に感じた時もある。

北海道巡行から歸つた司令官よりまづ長い長い英文の手紙を頂戴した。辭書と首引きで讀んだが涙を以つて讀んだ。何故私の心はこれを享ける事が出來ないのだらう。社會の他に於て私如きものをこれまで囑目して呉れる蠅が又とあらうか？考へれば全く有難い事だ。が無し迷ひる羊、ロスト・ソウルの私は何と言はれても――であつた。司令官は「君が再び起つならば重要なる椅子を汝に與へるであらう」といつて呉れた。

私の魂はたちまちぐらついた。名譽、前には何ものもなかつたらしい。私は傳道する時祈つた時と同樣、大倉山や須磨の海岸を彷徨しながら神に叫びかけた「弱き者よ！强者たれ！」と聞く。

嗚呼私はどうしたらいゝのだらう。社會は私に喰はして呉れぬ。キリストを冒りものにして喰らはんか？キリストを賣り矛盾を繰り返すならば榮譽を與へ腹の虫をフールして呉れる。惱み、惱み、悶え、悶えた。

須磨は關西の名所――死場所、して――海は誘惑す。光が波に返照して金波銀波がうねりくろずんだ海底は手をこまねく。汽車、電車の軋る音は事い事いを招く。老松若松が機をさぱり返して、何故兵團は活きねばならぬか？矛盾を知りつゝ爲すならば海に身を躍らせ、軌道に飛び込み何故首を絞らないか？死！死！死！

おそろしい事だ、私はどんな矛盾を繰返すとも死にたくない。どんな罪惡を犯してもまだ活き度い飢わなつたらパン屋の店先から無斷で頂戴して食はねばならぬ。――この樣な淺薄な馬鹿氣たことを思つた事もある。今更馬鹿だつた考へるだに馬鹿だつたと思ふ併し私の正直心なはそれだつた。食慾を滿すためにはどんな罪でもあひて犯したかも知れぬ。

だが神は私を見捨て給はず導き給ふた。基督を肴にして酒を呑む一種の商賈をなさしめ給はなかつた

明日の吉凶

新暦五月十五日　舊暦四月七日

▲一白　心を輕く持ちて沈まぬ樣にすべし世話事凶▲二黒　一念を集中して心を他に散らさずば吉日たり▲三碧　小挫折を氣に掛けず心をはげまして進むべし▲四綠　出費もあれども傍より入り來り餘りある日▲五黄　虚榮を去りて實利一方に働きはげむべし▲六白　一喜一憂出入も亦常ならざる日萬事に注意▲七赤　外に奮鬪するときは財自ら内に集まるべし▲八白　突進はいましむべきも後退すべき時にあらず▲九紫　その位に安んずれば福自ら集まり來るべし

講談 幕末怒濤記

(232)　渡邊默禪作　宮野歌春畫

此時ドドン、天組を碎く凄じの響きろとも、海上より飛んで來た巨彈爆然として玄關先に落下した。つと立つ砂煙りとともに七八人肉の醬となつて碎け散る

「やられた――殺られた！」

氣立ましい叫聲が耳を貫いて聞こゆる、榎本も松平も外の士官も顔を見合せてぞつと身顫した。

「やい何故いけねえんだ逃げる奴を叩ッ斬るのが那不承知なんださあ、その譯を聞かう」

梶原だけは今の砲音も下の騒ぎも無感覺である、平氣の平左である。酒氣に激した饒舌のつゝりとマンテルを脱いでツ裸例の鎮西八郎を背中に活動させて爛した眼に榎本を睨むおい

「梶原、後刻にしやうぢやないか誰かゞ斬られたさうだよ見ねなくなつて、ソレ下で怒鳴つてるぜ」

士官の一人が袖を引いた

「何をッ大砲が飛んで來るのは今に始まつた事かい珍らしさうに騒ぐな、莫迦ッ怖けりやア手前ゝ突走つてい叩ッ斬るから……」恐ろしい見脈である

「いやいけない」といふのは外でもない榎本は穏かに

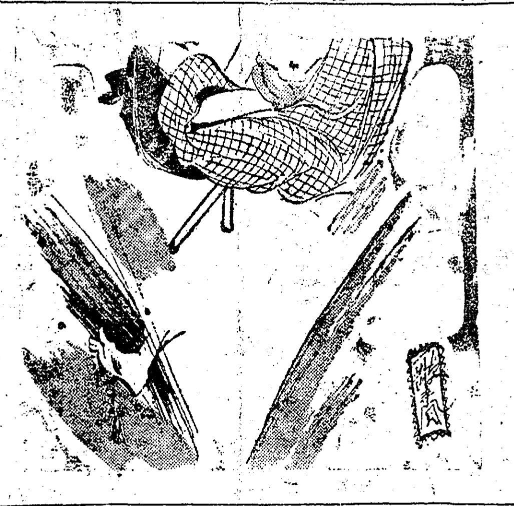
「夜中にまぎれて逃げ出すやうな者なら擲いて止めた所で何の役にも立たない臆病者だ、そんな臆病者なら寧ろ早く逃げて貰いたいそうして一粒よりの大丈夫武士の中の武士だけ踏止まつて死生を倶にしたいのが此の榎本の望みなのだ逃げたい者は勝手に逃がして追ふにも及ばず止めるにも及ばぬそれを斬りすてるとは以ての外のこと梶原お前の精神はよくわかつた、その好意に對して榎本くお禮をするが只今の建議だけは斷じて容れる譯には參らん」

毅然として作けた、と梶原は見る／＼眼を逆立てゝ獅子吼の大音を振り立てた

「ちや俺の顔を潰すのか、やいッいの本、よく俺の顔を潰しやがつた、よし覺えてろ」と怒號して

「こんな不埒妻のねゝ男だとは想はなかつた。ア俺ア見損なつちやつた。逃げる奴をその儘にすつぽかしてをくやうぢやもう駄目だ。そんな事で活物を對手に戰爭が出來るかい、手前もなんだな、ころ／＼怯氣がついて來て命が惜しくなつたもんだから今の中から逃げ出る下心、首を斬られねえ用心にそんな事を吐すのだらう、ム、こいつア承知が出來ねえよ、手前のやうな腰抜ぢや、うんとは云はれめね駄目だもうこの娑婆ぢやア仕事が出來ねね ア情けねねなあ」と四肢をふるはして男泣きに泣いた

斯く罵しられていの本は顔の色を動かさなかつた悵然として無言に窓の外を眺めた碧波十里渺すが如き海原に今しへつぱつとして横たはる敵艦雄姿堂々盛んに吐き出す黒煙は汐風に吹きなじかされて艦響のそれの如く眼下に走る



廣告

痔の最高内服藥　ダイサン錠
鼻のクスリ　チクノール錠
平町五丁目角　山野邊藥局

平町田町　高久病院　電話五一三番

公認　磐城自動車學校　第二期生大募集

本校創立ノ初頭第一期ニ於テ入學生實ニ三十有餘名ノ多數ヲ得タルハ時代ノ趨勢ニ目醒メタル學生ノ奮鬪ニヨルト内容ノ充實セルヲ雄辯ニ物語ル事實ニシテ本校ノ欣快トスル所ナリ茲ニ第二期生（六月一日）ノ大募集ヲ開始セリ來リテ本校獨特ノ教授法ト練習ノ猛烈ナル實ヲ觀覧セラレンコトヲ希望ス而シテ其眞劍ナル努力ノ眞相ニ直面セバ必ズヤ主首セラルヽ所アラン青年ノ職業撰擇ハ一種ノ蠱惑ヲ與フ男子快心笑ミ時代ノ進運ニ乘ゼル自動車ノ運轉手吾人ノ龍登門來リ學ベ學資ノ低廉ナル亦全國無比六月一日ノ一大好期ヲ逸スル勿レ

本科（三ヶ月卒業）一ヶ月分金二十五圓也　學科實習費共
速成科（二ヶ月卒業）一ヶ月分金三十圓也　學科實習費共
受驗科（一ヶ月卒業）一ヶ月分金三十五圓也　學科實習費共

學則及ビ入學案内申込次第進呈ス
時間貸歡迎
福島縣平町四軒町　磐城自動車學校　電話六四〇番

平町紺屋町　吉田眼科醫院

貸地廣告

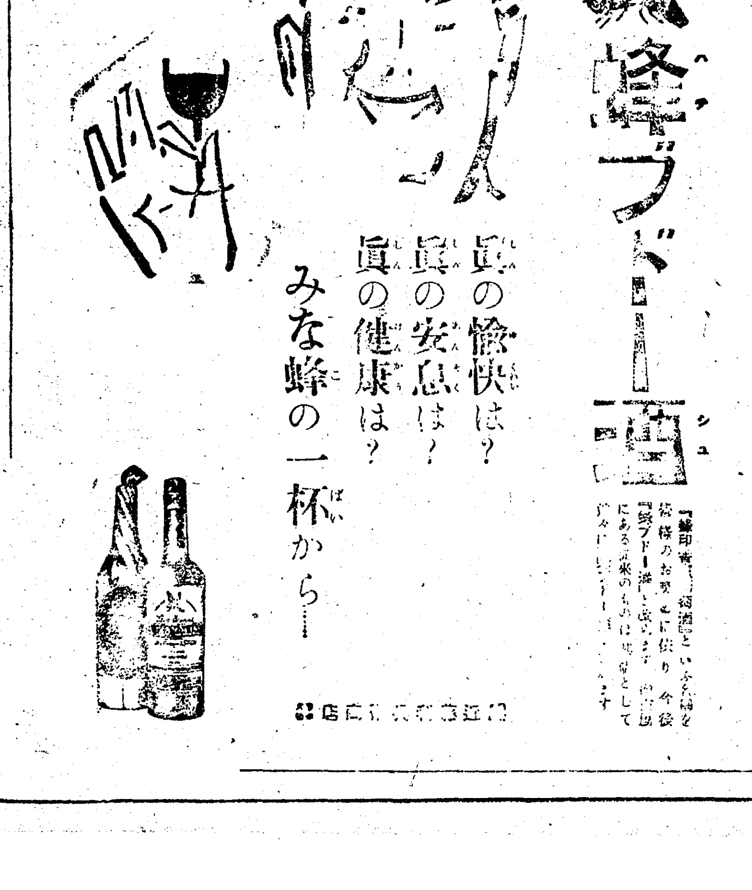
平町郡役所より税務署附近の新開地に五百餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり戴けば社員がお伺ひして親しく御相談に應じます

小名濱商事株式會社　平出張所　電話六〇三番　五四一番

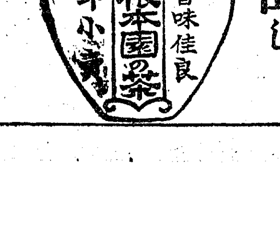
春の彩り裝ひは三井へ
羽二重九寸　博多九寸
京御召と錦紗小紋
主婦ノ友三秀會特撰　帶皮陳列
何卒御用命ハ弊店へ
平町　三井呉服店

外科　婦人科　内科　X光線科
外科一般　耳鼻科　花柳科　産科　人　外科
赤心堂病院　平町田町（電四七五）

◆初夏の飲料◆
キリン　サッポロ　ビール
金線サイダー
平町四丁目驛通り　永山酒造店總發賣元　電話二〇七番



根本園の新茶賣出し
四月廿二日より
香味馥郁たる新茶正に千金の値打あり長壽を欲する御人は召し上れ御早く
◎新茶は（ウイタミン）含有す多量に
平町四丁目　根本園茶店



生花教授
池ノ坊流　生花を懇切叮嚀に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町十五丁目通り　須藤まつの

改正　片濱乘合自動車時間表

平發	江名發
五時三十分	五時三十分
六時三十分	七時
八時	七時五十分
九時	九時二十分
十時	十時三十分
十一時	十一時五十分
十二時半	一時
一時五十分	二時
三時	三時三十分
四時	四時四十分
五時二十分	五時四十分
六時三十分	六時四十分

平のりば　四丁目和泉屋前　新川町車庫
江名のりば　沖見屋　松屋　電話十四番
鈴木片濱自動車部　電話二一七　車庫呼出電話一四二

二旬の後に迫り 戰機漸く白熱
十六日頃までに出揃ふ 平町議選擧戰

平町會議員選擧期日の切迫と共に漸く運動猛烈となつて來たが十四日午前中迄に平署に正式屆け出でをなした候補者は十六名に達し期日も二旬後に迫つて居るので十六日頃迄には定員の三十名位は屆け出でをなすもの豫想され二十日頃から益々猛烈な戰運動を見るものと豫想されてゐるが結局は定員を超す事僅か三四名位の三十四五名に止まるらしく未だ起否如何を確定せぬもの或は内心起意を堅め乍ら種々の政策的意味から發表を避けてゐる向きもある模樣である

大森氏決意
南町有志の熱誠

大森勇氏は南町豫選會の推薦を固辭して受けなかつたが何としても今一期出さねばならぬと云ふ有志の熱誠に動かされ出馬を決意し結局南町からは大森氏と秋原氏の兩氏に決した

揉める本町
各町内とも未決定

一丁目は鷹崎、渡邊兩氏とも辭退しお鉢は坂本隆造氏に廻り結局同氏に落ち付くらしきも未だ正式に受諾せず三、四、五の各町内とも未決のまゝ夫れ〳〵物色交涉中で五丁目は星野、井上兩氏とも固辭し、馬目、多田井兩氏また二の足を踏んでゐるが結局は井上、馬目兩氏の内に決するらしい

五丁目豫選
馬目、多田井氏か

五丁目では十四日午後二時より吉田屋料理店で豫選會を開き本稿締切り迄には何れも決定しないが井上氏が勇退し馬目武之助氏に決するらしく、大工町は多田井笑次郎氏を公認し五丁目と大工町聯合で極力二氏の當選を期する事となるらしい

平小學兒童の貯金 既に三萬五千圓
殆むど全生徒が加入し 學校當局も乘氣

平町第一、第二兩小學校では昨秋の御大典を記念すると同時に小學校兒童の貯蓄心を涵養するために兒童一名が毎月十錢宛を貯蓄する御大典記念貯金を開始したところ其の成績は頗る良好で一般經濟界の不況なのを裏切り全校兒童の殆ど全部がこの記念貯金に加入し貯蓄をなし第一小學校は四月一日現在で一萬七千餘圓、第二學校は一萬四、五千圓、合計三萬三、四千圓の貯金高を示してゐる、學校當局ではこの好成績にむしろ驚いてゐる程であるが一面から見て財界の不況が兒童の頭に貯蓄必要であるの觀念を與へた結果とも見られるが將來もこの成績を持續するやう盡力する方針である

目障りの立看板
特に新有權者に希む
平五　憂憤生投

平町會議員選擧に當り特に有權者に望む處のものは先づ第一に新有權者は多年蹊望した一票の權利を獲得した嬉しさ　餘り有頂天になり過ぎて此の貴き一票を如何に有効に行使すべきかを考へず徒らに選擧ブローカーに迷はされ無意義に投票する事などの無い樣に切望するものである

普選さて騷いだ程の變化なし

階級選擧に馴れきつて寧ろ選擧ずれして居る人々にとつては普選は餘り面白いものでない

伜樣たちや普選を喜ばずで何もなく自己の權利が薄くなつた樣に考へるかも知れないが

粉實を掌に吹きつけて普選論

と云ふ樣に彼方の田の畔でも此方の道端でも政治論が行はれる樣に自治教育が普及せられたら其町村は必ず優良な名擧を得るに相違ないが

有權者ふへて普選に村がもめ

あまり黨爭に沒頭する始末につかない事になるから注意して欲しい

閑話休題今回の選擧で政黨を背景にして立候補を宣言し何黨公認と云ふ看板を平町に見るが一体自治体に政黨を持ち込んでどしやうとする氣なのか、元來政黨の主義政策は國家に對するのみであつて一町村の自治體にあてはめべきものでない、而して多數の議員が集れば必ず甲黨、乙派と集團を造るのは在來の習性で或る問題に直面しての利害得失に對する見解の相違より生ずべき分派で止むを得ぬとするも立候補と同時に何黨公認と名乘り得べきではあるまい東京市會が不名譽の解散を受けたり市會の淨化を叫ばれたり折角出來た新市會も有識者に愛想をつかされたりするのも所詮は市會議員が自治の本質を忘れ自己所屬の黨利を計り從て自己の利福を得んとするあさましい醜き爭ひの結果に外ならぬのである

今や吾が平町は發展の途上にありとは云へ年々豫算は頗る膨大なるものあり不景氣は益々深刻に町民の生活は日に日に恐威されてゐる危急存亡の秋に際し町會議員選擧の好機會を與へられた以上町民たる者奮起一番大に町政の向上發展の爲め適當なる議員を選出する覺悟なかるべからず徒らに情實に驅られたり金錢酒食にまよはされて貴重不可侵の選擧權を無意義に使用する事の無い樣切に祈るものである

植田米突法
米商で實施協議

石城郡南の菊田米穀商聯合組合では十三日午後一時から植田町小學校内に春季總會を開催しメートル法が未だ地方民に普及されてゐないので依然從來の新取引が行はれてゐるためメートル法を完全ならしむる目的を以て來る六月一日から植田警察署管内米穀商は全部メートル法を使用するやう協議決定する

江名校增築
本校分校共落成

石城郡江名町では逐年就學兒童の增加に伴へ校舍狹隘のため一萬五千圓の經費を以て本校に五教室分校に一教室を增築中の處この程完成し十日同町小學校において落成式を擧行した

死んで伴れ添ふ 所存に有之候
久の濱の山林中で 若い男女の心中

久の濱町西方小學校裏手の山林中で猫イラズを燕下した情死体のあるを十三日午後一時頃發見したが右は同町沼澤長作四男喜久榮(二〇)と東京府下南千住町岩崎きみ(二〇)の兩人で兩人は喜久榮が上京中戀におち其の後分れてゐたのが過日前女が態々男を慕つて久の濱に來り情死を迫り十二日夜同町某藥店から猫イラズ五十グラムを買ひ最中に入れて食し合意の心中をしたもので喜久榮が母に宛てた遺書と女の遺書を發見したが遺書は(原文のまゝ)

「私儀家出致してより親樣はどんなに御心配なされたでせう、女の眞實な心と死んでも一所になると言ふたことはやぶることが出來ません死んで一所に成る所存に候何とぞお許し下さい」

又女が父にあてたものは左の如くである（同じく原文のまゝ）

「私たち二人で無斷で家出致し申わけありません、苦しき浮世で働くつもりでありましたが親を捨てた罪のあるカラダで長らへる事出來ません、先だつ不孝くれ〴〵もおゆるし下さい」

植田澁川架橋

石城郡植田町では同町小濱海岸に到る道路急坂のため改修計劃を立て工費豫算二萬三千餘圓を計上縣に補助出願中であるが同所澁川の橋を鐵筋コンクリートで架設するに決し鐵道省から古レール十本を拂下工費四千九百圓を以て近く起工する事となつた

磐炭高坂坑の 南坑道に出水
最高一分百五十立方 會社は排水作業

石城郡内郷村磐城炭礦高坂坑トマリより十二日午後三時半頃俄然出水し初めたので入坑中の坑夫を避難せしめ會社は應急防水設備を施したが容易に防ぎ得ず十三日午前十時頃は一分間百五十立方の出水となり更らに會社は防水工事を急いだ結果同日午後五時に至り漸く防止したが一部採炭不能に陷つたのみで會社は極力排水に努力し復活を計る筈

濱に大劇場
株式募集を開始

小名濱港附近の土地熱はいよ〳〵高まり會社、工場、商店の建設計畫が續出してゐるが、今度さらに岸壁附近の町有地二千餘坪を借受け濱街道第一の劇場を新築

母娘心中
危く助かる

石城郡上遠野村大字上遠野字柄窪一七農一妻木村みつゐ(三二)は十一日午前六時ころ長女たけ(二)を背負つたまゝ日立木驛で下り急行列車の進行中を目がけて飛込自殺を圖つたのを機關士が發見急行停車したので事なきを得たが自殺の原因は家庭の不和らしくみつゐは夫に引渡された

石城スポンヂ野球
來る十九日平町で 參加チーム多數

第三回石城スポンヂ野球大會は既報の如く來る十九日磐中、平第一グランドに開催するの旨既報したが既に申込チームは
田町倶樂部、湯本倶樂部、入山野球部、内郷天狗チーム平第一、綴製作A組 同B組、二葉チーム、平商、銀星倶樂部、南町倶樂部、平鐵道、遞友野球部 揚土倶樂部
の十四組に野球ファンに大沸騰し當日を期待されてゐるが高坂小學校同校職員チーム、平發電所、四倉野球團、磐中寄宿舍組も參加するらしく試合組合せ發表は十七日午後七時抽籤により平町田町大塚運動具店頭に掲示すると

平驛貨物の 事故なし週間
廿四日から行ふ

平驛では從來發着荷物の事故防止のため荷主に對し絶ず荷札荷造りの完備に就き注意を促して來た結果最近では從來に比べて餘程改善されて來たが未だ充分なる點に至らないので此の際更に一層の改善をはかるべく來る二十四日から三十日まで一週間確認期即ち事故なし週間を行つて荷主に對しては荷造りの完備驛に於ては監査の嚴正受授の正確保管の適切引渡しの完全を期し相互の事故を絶無ならしむる筈であるがその他荷主に對しては充分確認期間の趣旨を徹底せしむるために各所にポスターを貼付する外印刷ビラをそれ〳〵荷物受渡しの際或は大商店に配布する由である

平町會議員候補者一覽
本日迄の屆出分

平町會議員候補者として本日迄で平署に正式屆出をなした者の氏名、職業並に選擧事務長氏名左の如し

候補者	年令	職業	選擧事務長
宇佐美友二郎	(三三)	藥劑師	同人
野崎滿藏	(四九)	藝妓屋	未定
柳下元吉	(五一)	製板業	未定
石山治三郎	(五〇)	建具商	未定
馬目雅治	(三四)	凍氷販賣業	金子政道
根本品藏	(四四)	米穀商	佐藤源五郎
吉田寅之輔	(四二)	縫紋業	長谷川伊左エ門
吉村安次郎	(四三)	製綿業	屋島熊輔
吉田五平	(五三)	材木商	堀喜一
千葉彦治	(三八)	辯護士	酒井喜代正
荒川淺次郎	(四六)	建具商	未定
佐藤岩次郎	(五五)	雜貨商	未定
荒川恒次郎	(五一)	米穀商	青木甚平
齋藤敏實	(四八)	凍氷販賣業	未定
花澤兎五六	(六〇)	農業	叶多鉾治
加納五郎	(六三)	貿業	未定
佐々木健一郎	(五七)	請負業	前澤文太郎

海軍兵點呼

左記年次豫備役

平署管内に於ける在郷軍人の昭和四年度横須賀鎭守府簡閱點呼は左の年次の豫備役編入者に付き執行する筈である

一、大正十四年中に豫備役編入志願兵、徴兵
一、大正十五年中に豫備役編入の志願兵
一、昭和二年中に豫備編入の徴兵
一、同三年九月三十日以前に豫備編入の志願兵

會津周遊團
きのふ無事歸る

平町在住の會津郷友會主催になる若松、東山、柳津周遊團一行二百七十名は十一日朝出發直に會津線にて柳津に出發、虛空藏寺を參詣の上同夜は柳津に一泊し、翌十二日午前九時半西若松驛着市內を巡覽し同夜は東山溫泉新瀧、向瀧、不動瀧に分宿し十三日歸平したが若松市勸業課ではこれが歡迎方を斡旋し同市釀造業星野嘉衛門氏より清酒六斗、同宮森常八、河野善九郎、山口儀平三氏より同各一斗づゝ、林清五氏より一人當り醬油四合壜一本および手拭一筋づゝの寄贈があつた

郷土讀本を編纂
平校近く開講

小學校の兒童に郷土の過去現在の事實を敎へ普く深く郷土思想を紹介普及する意味から平町第一小學校長會我直治氏が主唱となり昨年四月から同校の中野目、坂內、野木、鈴木、大和田、上川各訓導等と郷土讀本編纂委員會を設け教材の取扱ひ法、各種題目の選擧、學年配當、材料と時間の配當等研究しつゝあつたがこの程終つたので「郷土讀本」の編纂中であるが五月下旬か六月初め頃には完成を見るべく編纂終了を待つて直に兒童に開講すべく目下準備ヶ進めてゐるがこの新目論見は一般から効果を期待されてゐる

平青訓所の 振興運動
青年團で活動

平町青年訓練所は入所生が漸次減少して昨今では設立當時のおもかげはなく平町當局、在郷軍人分會等が主体となり入所生の勸誘內容の改善等を圖つてゐるものゝ進んで入所する者がなく一大改革をなす必要に迫られてゐるので、平町青年團では去る十二日平町第一小學校に於て開催された春季總集會に於てこの青年訓練所の改革問題について協議を重ねた結果有名無實の現在の狀態を改善するには青年團が主として奔走盡力する事とし青年訓練所の振興運動をなす事に決定した

かみくづ

◇玉川の茶目クンは顏は小光と同樣の絞り手拭ひ組だが踊はまさか仕込みが仕込みだけに堂に入つたもので◇正しく敬復するもの豈強い男許りならんやだ◇惜しい事には亂暴に使つたと見へて大部スリ減つて軀か小柄になつてると思つたら、本人は「摺りへつたのぢやなくつてよ、生れつきだわ」といつてゐるから藝者は摺子木と違つて使つても減らないのは德用なものだ◇ナアニ減らない處か借金の方はだん〳〵殖へて行くなんて惡口は言ふべからず。

時評

立憲民政黨公認平町會議員候補者の看板は甚だ以て近來の奇觀

□

決して惡口を云ふのではないが、是れを見て誰れか考へなきを得るか

□

●●●さみだれ空、一しほ物憂きを聊つ

□

若い心中男女の遺書に曰く「死んで伴れ添ふ所存に候」との由

□

親が見たら其の甲斐性なさにさぞ嘆くであろう事と存じ申候

內科、小兒科 花柳病科 入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町 電話平局五〇七番

ヒゲタ醬油
宮內省御用達

銚子醬油株式會社

特約店 平町田町
廣瀬支店
電話五四番

レコードハ此のマーク！を
肉聲のビクターレコード
販賣店 會田時計店
平町四丁目(電話三六二番)
店員募集

外科一般(入院隨意)
內臟外科專門
花柳病科
平町六丁目(橋際)
木村外科醫院
電話三〇九

新築移轉
耳、鼻、咽喉科
合津醫院
平町仲田町七一(電話五五九)